

会 議 要 旨

( 1 / 4 )

会議の名称	令和5年度第1回川越市立美術館協議会
開催日時	令和5年5月26日(金) 午後3時開会・午後4時閉会
開催場所	川越市立美術館アートホール
会長氏名	(会 長) 宮澤光造
出席委員氏名 (人数)	(副会長) 山田誠次 (委 員) 青柳達雄、吉岡知子、山崎共子、田中 晃、 西野 博、武 成志、西川雄一郎  (8人)
欠席委員氏名 (人数)	
事務局職員 職・氏名	館 長 山田明子 副館長 折井貴恵 副主幹 相田祐次
会議次第	1 開会 2 職員紹介 3 議題 (1) 令和4年度事業報告 (2) その他 4 閉会
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 川越市立美術館協議会委員名簿</li> <li>・ 資料 令和4年度事業報告</li> </ul>

## 議 事 の 経 過

## 1 開会

## 2 職員紹介

## 3 議題

## (1) 令和4年度事業報告について

資料について事務局から説明。

## ■新型コロナウイルスの影響

●意見 日本博物館協会のガイドラインに沿って運営したのか。

○説明 日本博物館協会のガイドラインに沿って運営した。

## ■展示事業

●意見 企画展が年に2本というのは寂しい。今後の展望としてはいかがか。

○説明 川越市全体の財政状況が厳しいため、しばらくは現状が続くと思われるが、できれば年に3本が望ましいと考えている。

●意見 削減されたものを復活させるのは難しく、何かのタイミングが必要だ。

●意見 アンケートについて、デジタルフォーマットを活用した方が紙より回答率が高い。

紙と電子と併用を考えてほしい。電子は、まとめが楽である。

○説明 常設展は電子アンケートをとっている。

地下階（常設展示室・企画展示室）の電波環境が良くないため、実施が難しいという課題がある。

高齢の来館者が多いことから電子アンケートは見送った。

●意見 相原展と小茂田展では、小茂田展の入場者が市外の方が多い。何か異なる情報伝達を行っているか。

○説明 特に異なることは行っていない。小茂田展は、過去の展覧会をもとに設定した来館者数に対して予想外に及ばなかった。

●意見 小茂田展は、いい内容だったと思うが、来館者数が少なかったのは何か要因が考えられるか。

○説明 小茂田青樹の展覧会は、開館1周年のときに行っており、19年ぶりとなった。前回の展覧会から時間がたっているため、作家の認知度が低くなったと考えられる。間隔について今後は短く、川越の作家として知られるように努めるほうがいいだろう。

●意見 相原求一郎については常設展もあり、いつも見ているから来館者が少ない、という感じは無かったか。

○説明 収蔵品展のため、見る側には、すでに見ているものという意識は分かる。2018年の回顧展後に再展示のリクエストがあり、相原作品のコレクション一括公開は、これまで行ったことが無かったため企画した。

## 議 事 の 経 過

- 意見 小茂田青樹は川越市の貴重な存在であるが、会期中は小学6年生のバス見学が重なったことはあったか。
- 説明 会期とバス見学は会期が重ならなかった。かろうじて青樹が滞在した地域である芳野小学校のみが重なり、特別展も含めた見学とした。
- 意見 せっかくなのでバス見学と会期を重ねることも考えてもらいたい。
- 意見 きもの日（毎月8・18・28日）にちなみ、どのくらい来館者が増加するのか。
- 説明 令和4年度に関しては年間で2人である。
- 意見 館内の写真撮影は不可なのか。
- 説明 相原展は可、小茂田展は最後に1作品のみ撮影可能な場所を設けた。ただし、来館者が作品といっしょに撮ることは不可とした。
- 意見 たいていの人は自分が入って撮ることを考えるのではないか。年代的には、そういう人しか撮影しないのではないか。
- 説明 学芸員からすると作品保全のため、背を向けて撮影することは好ましくないと考える。最近ではエントランスに撮影用の場所を設けている。
- 意見 来館するのは一般の方だから、和装にしたら写真を撮りたいと思う。
- 説明 着物レンタル店にはチラシを配布しているので口添えをしていただくよう、お願いしたい。
- 意見 （作品との）自撮りは今後も難しいか。
- 説明 1階のバナーで撮影できるようにする。  
作品は難しいが、記念になるような展示製作物を活用することはあったほうが良いと考える。
  
- 教育普及事業／■作品取得・美術品外資料の受け入れ／■管理運営
- 意見 美術品外資料の受け入れは興味深い。整理は大変な仕事である。
- 説明 たくさんは受け入れられないが、作品、資料以外の間接的な資料などから作家のこれまで知られていない情報が分かるため、作品外資料として管理することは重要である。最近ではアーカイブとして資料管理する傾向がある。
  
- 美術館のデータ
- 説明 令和3年度と4年度の来館者数の差について、令和3年度はどちらも企画会社が担当している。花村展が担当者・会社の宣伝活動が大きく、吉田展は全国巡回展であり、感染症で出かけられなかった方の来館が観覧者数に反映したと分析している。  
花村展、吉田展は令和2年度に予定していたため、開催情報は1年前から得られていた。

## 議 事 の 経 過

- 意見 令和3年度と令和4年度の外国人来館者数では、ほぼ2倍である。外国人への周知経路があったのか。
- 説明 コロナの影響に比例して増減している。  
外国人は、特別展が目的ではなく、旅行日程に合わせて川越市を訪れ、来館する。
- 意見 川越市内の宿泊施設にはチラシ等を配付しているのか。
- 説明 ホテルなどには配布している。

## (2) その他

- ◎報告 令和4年度に行った修繕の状況を報告。  
令和5年度6月に創作棟の空調の改修を予定。  
館内の要改修箇所を抽出し、他市の美術館を参考にして改修を検討することを了承された。  
令和5年度は関係課に相談のうえ改修計画の作成を進める予定。
- 意見 協議会が行われているアートホールと比べて市民ギャラリーの床が開館当初に比べてかなり汚れている。また、異音が発生する場所があるので点検をお願いしたい。
- 意見 取り急ぎ改修を要する危険な箇所はあるか。
- 説明 受変電設備の修繕を予定している。
- 意見 計画に関わらず故障した場合は修理してくれるのか。
- 説明 緊急修繕は別として行われる。改修計画は、壊れる前に予防保全することに考え方が変わっている。
- 意見 中学校美術部展には市立中学校全22校が参加している。  
展覧会で館長賞を受賞した作品が「アートの甲子園」に出品されてグランプリを受賞した。また、出品3作品が入賞しており、美術部展は子どもたちの励みになっている。
- 意見 生徒の作品を発表するのは教員にとって手間がかかるが、子どもへの効果があり、自信につながる大切なことである。
- 意見 前回の協議会に議題について、その後の状況はどうか。
- 説明 受付・看視については、慣れている方が担当することが望ましいことを多くの方に理解してもらえよう、協議会の意見も踏まえて効果的なプレゼンテーションを行えるようにする。
- 説明 駐車場については、利用時間を入口、場内に掲出した。

## 4 閉会